

長雨時の水稻の刈取について

宮城県米づくり推進本部
令和8年9月18日

県内の水稻はおおむね刈取適期を迎えていますが、8月末以降、降雨日が多くなっており、今後も雨が多い予報であることから、刈取への影響が懸念されています。
雨の合間を見て、計画的な刈取、丁寧な乾燥・調製を行いましょう。

1 刈取適期の目安について

出穂後の積算平均気温による刈取適期の目安は、「ひとめぼれ」で940℃～1,100℃です。本年の県出穂盛期である8月1日に出穂した「ひとめぼれ」であれば、おおむね刈取適期に達していると見られます。

表1の見方

北部平坦地帯で出穂期が8月1日の場合、9月11日～9月19日が刈取適期と見込まれます。

表1 地帯区分・出穂期別の「ひとめぼれ」刈取適期の目安

地帯区分	積算平均気温	出穂期				
		7/26	8/1	8/6	8/11	8/16
北部平坦		出穂期の翌日から各積算平均気温に到達する日(推定)				
	940℃	9/4	9/11	9/17	9/22	9/29
	1,000℃	9/7	9/14	9/19	9/25	10/2
	1,100℃	9/12	9/19	9/24	10/1	10/8
南部平坦	940℃	9/4	9/11	9/16	9/22	9/28
	1,000℃	9/7	9/14	9/19	9/25	10/1
	1,100℃	9/12	9/19	9/24	9/30	10/7
仙台湾沿岸	940℃	9/3	9/10	9/15	9/21	9/27
	1,000℃	9/6	9/13	9/18	9/24	9/30
	1,100℃	9/11	9/18	9/23	9/29	10/5
西部丘陵	940℃	9/5	9/12	9/18	9/24	9/30
	1,000℃	9/8	9/15	9/21	9/27	10/4
	1,100℃	9/14	9/20	9/26	10/3	10/10
三陸沿岸	940℃	9/5	9/12	9/17	9/23	9/29
	1,000℃	9/8	9/15	9/20	9/26	10/2
	1,100℃	9/13	9/20	9/25	10/1	10/8
山間高冷	940℃	9/7	9/14	9/19	9/26	10/2
	1,000℃	9/10	9/17	9/23	9/29	10/6
	1,100℃	9/16	9/22	9/28	10/5	10/13

注1 積算平均気温は、「ひとめぼれ」の刈取早限(940℃程度)、刈取適期(1,000℃程度)、刈取晩限(1,100℃程度)の3区分。

2 出穂期の翌日から各積算平均気温に到達する日(推定)は、出穂期翌日からの積算平均気温が940℃、1,000℃、1,100℃を超えた日とした。

3 気温の積算値は、9月17日までは各アメダス地点の実測値、9月18日以降は令和3年～7年の平年値を用いた。

4 県平均刈取盛期は平年値9月30日、前年値9月27日。

5 使用したアメダス地点は、「北部平坦」：古川、築館、米山、鹿島台、大衡、「南部平坦」：白石、丸森、「仙台湾沿岸」：亘理、名取、仙台、石巻、「西部丘陵」：蔵王、川渡、「三陸沿岸」：気仙沼、南三陸、「山間高冷」：新川

表2 品種ごとの出穂後積算平均気温による刈取適期の目安 表3 県内の出穂状況

	刈取早限 ～ 刈取晩限
ひとめぼれ	940℃ ～ 1,100℃
ササニシキ	930℃ ～ 1,150℃
だて正夢	1,020℃ ～ 1,060℃
金のいぶき	1,050℃ ～ 1,150℃
つや姫	1,000℃ ～ 1,200℃

区 分	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
本 年	7月26日	8月1日	8月14日
平 年	7月28日	8月1日	8月9日
平年差	2日早い	平年並	5日遅い
(参考)前年	7月25日	7月30日	8月6日

※平年値は平成28～令和7年の10ヶ年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8ヶ年の平均値。

2 今後の収穫・乾燥調製のポイント

(1) 収穫作業

- ・本年は特にほ場ごとの出穂時期、刈取適期の差が大きい傾向にあることから、ほ場ごとの籾色や倒伏程度等を確認の上、刈取順序を決めましょう。刈取適期を過ぎると、穂発芽や胴割粒が増加します。
- ・降雨により水が溜まっているほ場では、溝切りや排水路の手直しにより表面排水を促しましょう。
- ・コンバイン収穫では籾水分が高いと損傷が多くなるだけでなく、機械詰まりの原因、穀粒損失割合の増加などにつながります。籾水分 25%以下を目標に刈取作業を行い、降雨直後や朝露のある時間を避けましょう。
- ・コンバイン詰まりを防ぐため、速度を落として作業しましょう。
- ・倒伏している場合、他の稲とは別に刈分けを実施し、収穫物に石などの異物が混入しないよう注意しましょう。
- ・鉄コーティング直播は特に倒伏しやすいので、刈取適期に達したら早めに刈り取りましょう。

(2) 乾燥・調製作業

- ・収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因となることから、刈取り後、速やかに乾燥機に張り込み、送風しましょう。やむを得ず高水分籾を刈り取った場合は、必ず通風して高水分域の籾や付着水を乾かし、水分バラツキを少なくしてから火力乾燥します。
- ・水分ムラが大きい場合、低水分籾が過乾燥となりやすく、胴割粒の原因となります。倒伏した稲や未熟粒が多い稲などを機械乾燥する場合、二段乾燥（籾水分が 20%以下になるまで乾燥した後、乾燥を一時停止し、籾の水分ムラが少なくなってから再度仕上乾燥を行う）を行い、水分ムラや胴割粒の発生を抑えましょう。
- ・仕上がり玄米水分は 14.5%～15.0%が目標です。正確な水分測定のために、玄米の測定サンプルから未熟粒を取り除いて測定しましょう。また、こまめに水分を測定し過乾燥を防止しましょう。青米が多い場合は乾燥終了後に水分の戻りが生じる場合があることに注意しましょう。
- ・籾水分の戻り等で籾水分が高くなると、特にロール式籾すり機では脱ぷ率が低下し、肌ずれが多くなりますので、籾すり前に籾水分を再度測定し、水分が高い場合には再乾燥を行いましょう。

【徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策】

秋の農作業安全確認運動 ～令和8年9月1日から11月30日まで～
シートベルト・ヘルメットの着用を徹底！